

岩手教区報

第403号
 立教189年7月1日
 天理教岩手教務支庁
 盛岡市馬場町3-40
 TEL 019-622-7962
 FAX 019-623-9597



旬の風をとらえて 主事・少年会団長 高橋 邦和

天理教少年会は、昭和41年10月26日に発足し、今年、創立60周年を迎えます。中山正善・二代真柱様は、親の信仰を子供に伝える「縦の伝道」を補う、組織的な取り組みの必要性を説かれ、その思いを受けて教祖80年祭の年、中山善衛・三代真柱様(当時、継承者)を会長として発足しました。以来、少年会の活動は二代真柱様、三代真柱様、現真柱様の、道の次代を担う人材育成への並々ならぬ親心によるお導きのもと、携わる人々の不断の努力により推し進められてきました。岩手教区では創立を受けて、昭和42年3月、初代団長に加藤隆司先生が就任され、その年のこどもおぢばがえりには教区団として初の列車団体が運行されました。また、昭和49年には、第1回おつとめまなび総会が300名を超える参加者を得て開催されました。以後、地道な取り組みが長年にわたって引き継がれ、当時育てられた子供が、育てる立場となっています。ところが令和2年、コロナウイルスの世界的な流行によりすべての活動が停止され、ことに令和4年までの3年間、こどもおぢばがえりが中止されたことは、皆さんの記憶にも新しいことだと思います。コロナ禍が明けて以来、少年会行事が少しずつ再開され元の状

態まで戻りましたが、子供に声をかける、教会へ寄せらる、おぢばがえりをするといった努力が、休止したままになつていく教会が少なくありません。少年会の目的は、子供達に信仰の喜びを伝え、教祖の教えが身につくように躡り、将来立派なようによく育つための基礎を作ることにあります。本年の少年会幹部会において真柱様は「子供たちを将来の有為なるようによく育てることは簡単ではありませんし、すぐに結果が現れることでもありません。我が子でも難しいのでありますから、人の子ならば尚更でありましよう。しかし、だからといって、その努力を怠ってしまえば、道の将来に大きな影響を及ぼすこととなります。どうか、育成会員としておつとめくださる皆さんには、子供たちが立派に道を通る将来の姿を楽しみに、教祖の教えが誤りなく次代に引き継がれていくよう、先を見据えて、これまで以上に少年会活動の上にご尽力くださいますようお願いいたします」と述べられました。「これまで以上に」とは、この活動があらゆる物事の最優先事項であると悟らせていただきます。今年も再出発の年。旬の風をとらえて前進させていただきます。

「ブラジル人夫妻と父の夢」



8年来の友人であるブラジル人のデボラさんとタルレスさんご夫妻が、教祖ご誕生祭の機に来日されたこと知り、新潟にある所属教会・越路分教会に会いに行つてきました。2人は信仰初代。あるきっかけからのおいがかかり、信仰が始まりました。

それは、10年前の教祖ご誕生祭の頃、2人がアジアを旅行の途中、日本で観光していた時のことです。静岡で次の目的地である京都への行き方を調べているときに、コロンビア人の布教師グスタボさんから声を掛けられました。関西には天理というところがあり、詰所を拠点に観光をするのが良いということで、天理へ案内されたそうです。そこで、お道の教えを聞き、おさづけを拝戴されました。ブラジルに戻り、病気の親戚におさづけを

取り次ぎ、そのご守護を目の当たりにし、また、子供を授けて頂きたいとの願いもあり、修養科を志願することになったのです。現在は、3人の男の子を授かっておられます。デボラさんは歯科医。病院の運営と並行して、ご夫妻は、キャンピングカーに乗り、南米の各国で布教活動をしていくとのことでした。2年前に神様をお祀りし、キャンピングカーの中にも神棚があります。

南米には伝道庁や布教拠点がありませんが、信仰者は点のように離れて暮らしています。ご夫妻は、「道の二百里も橋かけである。その方一人より渡る者なし」との教祖の仰せにより、新潟への道をつけた鴻田忠三郎先生のご事績(稿本天理教祖伝逸話篇九十五『道の二百里も』に感銘を受け、Bridge(橋)をスローガンに、自身の教会への繋ぎに加えて、南米各地の教会や布教所などの拠点を訪問し、信仰者を繋ぐ活動をされています。

ご夫妻の話を伺いながら、50年以上も前の父の話を思い出しました。父・吉澤清一郎は若い頃、放浪の画家・山下清と出会い、天理に案内しようと言葉をかけたそうです。「それはもう一步のところまで成功しなかった」と、笑いながら話してくれました。また、父は、歳をとり教会長職を辞した後、ライトバンに乗って、日

本の各地に布教の旅に行きたいとも話していました。父はその前に出直し、その夢を果すことはできませんでしたが、デボラさんとタルレスさんが父の夢を実現しているようです。

「陽気ぐらし講座」開催報告(6月分)

奥州 21日(日) 岩手沢分教会 34人

金ヶ崎町中央

生涯教育センター 24人

〔講師 金子晃久先生〕

行事予定 7月分

- 1日 役員会議(10時)
- 4日 青年会東北ブロック大会 in 青森
- 11日 道の教職員の集い講演会(10時) 総会(講演会後)
- 12日 少年会例会(18時)
- 18日 育成に役立つ研修会(9時30分)
- 18日 支部主任・副支部主任勉強会(10時)
- 19日 婦人会例会(勉強会後)
- 19日 少年ひのきしん隊教区練成会(10時)
- 26日 広報部編集会議(15時)
- 26日 少年ひのきしん隊本部練成会 (28日)
- 29日 女子青年例会(10時)
- 29日 学生会移動例会(於陸中青少年の家)



献血推進委員会

「献血ひのきしん」報告

岩手教区は5月31日(日)、教務支庁を会場に「献血ひのきしん」を実施した。当日は、近隣住民11人を含む、総勢87人の方々が参加し、温かいひのきしんの輪が広がった。

午前9時から移動採血車による献血が開始され、県内各地から駆けつけた教友や地域の方々28人(33人受付)が400mlの全血献血を実施した。なお、献血の受付をされた方全員に「天理カレー」を教区の記念品として配布した。

午前10時、庁舎内広間において、日



本赤十字社岩手県支部の種田伸吾事業推進課救護係長を講師に「ご家庭で役立つ救急法」お年寄りから子どもまで」と題した講習会を開催し、25人が受講。三角巾を用いた頭部の保護をはじめ、骨折時などを想定した足の固定方法といった応急処置の手順を実践。さらに、身近にある新聞紙を使って簡単に作れる「防災スリッパ」の作製にも挑戦した。参加者同士で実際に体を動かしながら体験し、講師への質問も相次いで寄せられ、充実した学びの場となった。

一方駐車場では、午前11時から教区婦人会によるバザーをはじめ、村松義朗青年会委員長が勤めている「紫波酒造」と「レジュニール」(店长・桐山太司神岩手布教所長)の出張販売が行われ、これらの収益金の一部を日本赤十字社岩手県支部に寄付した。

大勢の方々にご参加いただいた今年の献血ひのきしんは、盛況のうちに終了となった。



青年会

「岩手っ子だヨ！全員集合！」

in天理」報告

教区青年会は、6月13日(土)14日(日)の両日、親里において「岩手っ子だヨ！全員集合！」を開催し、親里や近隣在住の岩手に繋がる若者ら23人が参加した。

18日は18歳以上を対象に、夕方から夜にかけて大垣詰所を会場に懇親会を行った。はじめに村松義朗青年会委員長が歓迎の挨拶をし、続いて全員の自己紹介。その後は食事会となり、和気あいあいと語り合っており、互いの親交を深めた。

翌19日は、午前9時に南礼拝場前へ集合。天理市三味田

町の教祖誕生殿を見学し、続いて教祖お墓地进行参拝させていただいた。その後、大垣詰所にて、昼食のバーベキューを囲んで楽しい親睦のひとときを過ごした。



祭事部

「雅楽勉強会」報告

教区祭事部は6月14日(日)、教務支庁を会場に「雅楽勉強会」を開催し、6人が参加した。今回講師をつとめたのは、権谷正一氏(笙)、田中範道氏(箏篋)、権谷一平氏(龍笛)の先生方。

初めて雅楽を習う小学生とその親御さんが参加される中、午前中は管毎に分かれての学習となった。先ず基本となる唱歌から始まり、続いて苦手な箇所や練習のコツなどを学び、昼食を挟んで午後からは合奏練習を行った。



婦人会

「支部主任・副支部主任勉強会」

【7月18日】

対 象 わかぎ(中学1年生～3年生)
参加費 15000円
日 程 7月25日 教務支庁出発
26日 本部練成会参加
28日
29日 おちば発着 岩手着
宿 舎 おやさとやかた東左第5棟、城山詰所
服 装 活動服ズボン・帽子(貸与)、Tシャツ(支給)、運動靴、ソックス



少年会

「少年ひのきしん隊本部練成会」

【7月26日～28日】

日 時 7月18日(土) 10時
場 所 教務支庁
参加費 10000円
持ち物 「みちのだい」212号
内 容 「婦人会に期待する事」の読み合わせとねりあい



学生担当委員会

「育成に役立つ研修会」【7月12日】

教区学生担当委員会は7月12日(日)、教務支庁において「育成に役立つ研修会」を開催します。グループワークやお話を通して、次世代の育成に役立つプログラムを学ぶ研修会です。育成に携わる多くの方々のご参加をお願いします。

日 時 7月12日(日) 9時30分
会 場 教務支庁
対 象 各会育成担当者、教区支部学生担当委員、他。
※問合せは鈴木眞浩委員長(090-5162-5709)迄。